

だみ よく りに

No.770 令和8年2月1日発行

「子どもの学びと大人の支え」

「学校で何が一番楽しいですか」
「休み時間にどんな遊びをしていますか」
「初めて1年生になったときの気持ち教えてください」

1月末に参加した「柏第一小学校1年生との交流会」で聞いてみると、年長組から出てきた質問の一部です。的を得たこれらを読むと、真剣に考えたものだということがよく伝わってきます。子どもたちの中で、就学や進級に向けた気持ちが少しずつ動き出す時期がやってきました。今年度も残り2ヶ月。最終日まで一日一日丁寧に過ごしてまいります。

さて、年末、久しぶりにファミリーレストランに行ってきました。今、すごいですね。配膳ロボットと言うのでしょうか、配膳ロボットが数台、大活躍でした。わたしの中では時々、店舗に1台が1回食事を届けに来てくれるのに遭遇するくらいでした。それでも時代が変わったなと思っていたのですが、ところが、今回は配膳ロボットが4台（極端に広いということもなく一般的な規模のお店です）、できた食事をその都度届け、それだけでなくお皿の中間下げまで来てくれました。人と接したのは、とうとう最後のお会計だけでした。驚きです。わたしは就職するまでにいくつかのアルバイトを経験したのですが、そのうちの1つが飲食店です。「中間下げ」は、テーブルの空間を作つてお客様がゆったりとした環境で快適に食事をとれるようにすること、次のお客様をスムーズに案内できるように回転率をあげることといった意味があり、お客様とお店のためになる大事な業務でした。少なからずわたしはそう教わりました。ただ、それだけでなく、周りを見る目、気づく力も養われるので、自分のためにもなることだとは言うまでもありません。今ではそれをロボットがやっている……中間下げを経験するホールスタッフと経験しないホールスタッフでは、教わることや得るものに違いがあることでしょう。

時代が変わっていますね。わたしたちは今、どちらかと云うと後者の時代を生きる子どもたちを育てているのですね。

大寒を過ぎ、気温が急降下しましたが、体調崩されていませんか。マフラーや手袋といった防寒具も活用されていますか。気温が低い日の登園時に、あるお子さまが「手袋の暖かさを確かめてきた」と教えてくれました。いいですね（これまたわたしの異常性アンテナ発揮です）。手袋の暖かさを確かめる。いつしか当たり前になっていることには初めてがあって、それを確かめようと学ぼうとする、子ども時代のこの学びいいですね。わたしたち大人もきっとこうだったのでしょう。「手袋は暖かくしてくれるものです」と聞いて知ると、自分で確かめて学ぶのとは違いますね。もちろん、聞くことも知る手段として大事なことですが、いつか大人の手が離れて自立していく子どもを軸に考えた時に、後者が大事です。示された答えの通りにやるだけではなく、大人の目がある中のびのびと、自分で失敗と成功の過程を積み重ねて主体的に生きていきます。それを改めて気づかせてくれた一言でした。

言い方を変えると「子どもは有能な学び手」ということです。この捉え方は日本の教育要領や保育指針の大前提とされているもので、「大人は子どもの学びを信じて支える人」だとも。日本の教育・保育は丁寧で、良いものに子どもたちは守られているなと思います。少し逸れましたが、わたしは子どもを学び手と捉えて「わたし、今、学んでまーす」などと心の声を想像して、わくわくします。皆さんも子どもの心の声「わたし、今、学んでまーす」を想像してみるのはいかがでしょうか。

今月もアンテナを張って、子どもたちの「わたし、今、学んでまーす」という心の声を想像して、信じて、支えていこうと思います。わたしも子どもたちに負けじと主体的に！そして、大人は大人で支え合う、これも大事です。

今月もどうぞよろしくお願いします。

